

学習の見通しと振り返りを位置づけ、学びに向かう力を育成する

単元扉

9 言語文化の可能性を追求する

古典文学を現代の視点から解釈する

竹取物語——かぐや姫の昇天 森見登美彦 訳

雨月物語——堀江の坊 上田秋成・石川淳一 訳

角を闘む 三浦しんいち 訳

※ ドラマ中の方言はどこにあるか
※ フォックガイド

学習活動のために

教材末尾に設定した「学習活動のために」で教材の内容理解を補助しています。適宜、リンクマークから資料編の読解ツールを参照し、読解の方略を用いて読みを深めることができます。

豊富なデジタルコンテンツにアクセス

紙とデジタルをつないだ、立体的な学習を実現します。

単元の振り返りシート

知識技能
デジタルドリル

見通しの明示

各単元・教材の冒頭で、「身につけたい言葉の力」(学習目標)を明示しています。また、「学習活動」で学習のプロセスを示しています。見通しをもって学習に取り組むことで、学習への意欲を喚起します。

言語文化の可能性を追求する

竹取物語——かぐや姫の昇天 森見登美彦「訳」

美しく育ったかぐや姫に、國中の貴公子や帝でも求めたが、姫は、ついに受け取らなかった。姫は鶴と化し、自分は月の世界の者だ、もうすぐ迎えが来ると帰らねばならないと打ち明けた。鶴からこのことを聞いた帝は、「三人の兵士を使わして、鶴の羅敷をさらせよ。」

「育ての親の愛情を無下にして、こうして去っていくことばかたまりではありません。間もなくお別れしなくてはならないのも前世からの宿縁がないから、そのことを悲しく思っています。」「両親のお世話をできずにお別れすることになれば、月へ帰る道も心安らからずにはいられないから、この数日も縁に就いて、せめて今年一年は、この鶴子を連れ出たのです。それなのに、まったく許してもらえませんでした。あなたの方のお心を通して去ってしまうのが、本当に恐くて耐え難い。月の都の人は、たいそう驚いて、鶴をどうにもありません。思ひ返すこともないのです。でもそのうちどうにか行くことも、今はちょっと帰れな。老いていくご両親のそばにいて、お世話をさせてさしあげたいとが、できなくて心が残り……」

「さしあつた痛くなることを仰るな」と鶴は言った。そして、これは立派な女をさした使者がやってこようが、姫を渡してなるものか」と怒りをくすぶらせていた。

こうして、いつか月を過ぎ、深夜をまわった頃、屋敷のまわりが厚よりの明るい光に包まれた。それは満月の明るさを十倍にたまたまないへんな明るさで、目の前にいる人の毛穴さえもまざまざと見えるほどだった。

253 | 竹取物語

9 言語文化の可能性を追求する | 252

学習活動のために

「鶴」はどのような人物として描かれているか、考えてみよう。

読み解きツール 人物造形 345ページ

天人が「未熟なやつめ」(25・13)と言ったのはなぜか、説明してみよう。

垣間見

古典の世界、男性が女性を眺めるまじかたのついに垣間見がある。男性が垣間見の窓の中を覗きこむこと、このまじかたは、『雨月物語』「北山垣間見」のほか、『伊勢物語』「初冠」の場面など有名である。かつては、成人した貴族の女性に縁談以外には垣間見をしないという習慣があり、男性が女性の顔を見ようとは垣間見がほぼ唯一の方法であった。

垣間見は垣間見に見るものとは限らない。『源氏物語』に登場する安三の言は猫を覗いたが、猫が外に出ようとする時、御簾がめくれあがってしまい、その姿を見た10貴公子の目には落ちる。偶然できた御簾の隙間から中にいる女性を見る、これもまた垣間見である。これらを含めて、『源氏物語』には、実に五十五例も垣間見の場面が描かれている。

見るこが、できないから、見たいという思いは高まると、垣間見た時の喜びは大きい。それが王胡人の悪心であったのだ。

人物造形

人物の描写や発言を通して人物像を推しよ

文部左門 富貴をねがわず、貧賤にめげず → 世俗の名利に無関心
われらよきに足踏してはかれぬ → 思いやりの心が深い
かならず釣をたがえますまい → 赤穴への強い信頼

赤穴右衛門 死すとも、おこころざしに頼りてまつらう → 悪意に頼る決意
功名富貴はいつたりませぬ → 世俗の名利に無関心
みづから方に伏し、こよい徳義に乗って → 命より信義を重んじる
はるばる来り、菊花の影につく

ポイント 本文の叙述に基づいて考えることが重要である。

コラム
適宜コラムを設け、教材で扱ったテーマや内容を補足しています。知識を深め、興味関心を広げます。

コラム 次しりしりする花の音の井戸

「次しりしりする花の音の井戸」は、平安時代の歌集『古今和歌集』に収められた一首の和歌を題材にした小説である。この小説は、現代の視点からこの和歌の世界を再現し、当時の生活や文化を詳しく描き出している。また、和歌の持つ美しさを現代の読者に伝えるために、美しい挿絵が添えられている。

153 | コラム 次しりしりする花の音の井戸

コラム 竹取物語の舞台

竹取物語の舞台は、奈良県天理市の天理市立竹取公園である。公園には、竹取の村を再現した建物や、かぐや姫の墓がある。また、公園には、竹取の村の風景を再現した写真や、竹取の村の歴史を詳しく描いたパネルがある。

152 | コラム 竹取物語の舞台



参考マンガ古典文学 竹取物語

「マンガ古典文学 竹取物語」は、平安時代に作られた『竹取物語』をもとに、現代的な視点や独自の解釈を交えて描かれた作品である。本作に描かれた次の場面を読み、気づいたことや考えたことを話し合ってみよう。また、話し合ったことを参考に、「竹取物語」を脚本や絵本、小説など、好きな形式で書き換えてみよう。

竹取物語

かぐや姫は、天孫降臨の神話に由来する。天孫降臨とは、天孫が地上に降りてきて、人間と結婚することである。かぐや姫は、天孫降臨の神話に由来する。天孫降臨とは、天孫が地上に降りてきて、人間と結婚することである。

さらに読解を深める「参考」教材
適宜、読解の参考となる文章やメディアを掲載しています。読み比べにも活用できます。

単元の振り返り・読書案内

単元の最後に、学習活動を通して身につけた力を自分で確かめ、これからの学習へと生かす「単元の振り返り」を設定しています。また、「読書案内」または「ブックガイド」を掲載し、多様なジャンルの読書へと誘います。

単元の振り返りシート

読書案内

二回目からの読書